

# サステナビリティ教育研究センター 活動報告

## 1. タイトル

2024 年度けやき循環プロジェクト 枝の活用

## 2. ケヤキの枝について

学園のケヤキ並木の剪定作業で発生し、処分する予定であった枝の活用を検討し、随時実施している。

学園ではケヤキ並木の安全かつ適正な管理のため、構内のケヤキを5つのエリアに分けて、エリアを一巡する5年をⅠ期とし、Ⅱ期10年間にわたり、高く大きく生長したケヤキ(約25m)を現地の樹木間に適した樹高幅(20m前後)となるよう切り詰め剪定事業を進めている。

Ⅰ期(2018~2022年度):切り詰め剪定(約25m→約18m)

Ⅱ期(2023~2027年度):切り詰め剪定(約22m→約15m)

上記の切り詰め剪定事業にあたって、1年あたり約500kgの枝ごみが発生するが、その枝ごみを活用することで、処分費用の削減への貢献が見込める。

## 3. 活動内容

<桜祭でのワークショップ参加>

2024年3月31日に開催された桜祭で、クロスウィービング作りのワークショップをおこなった。クロスウィービングは、木の枝に毛糸を蜘蛛の巣状に巻き付けていくもので、今回のワークショップでは、学園内で回収した不要になった毛糸・編糸、ケヤキの枝を活用した。ワークショップの参加者の多くは、桜祭を訪れた子どもたちで、枝の活用チームのメンバー、中高ユネスコスクール探究プロジェクト(※)のメンバーと一緒にクロスウィービング作りを行った。参加者の中には、成蹊小学校の受験を考えているご家族や、成蹊小学校の児童とその保護者も多く、優しく丁寧に教えてくれる中高生に対し、好意的な印象を持ってくださった様子であった。また、成蹊学園のケヤキ並木と、その枝の活用、というプロジェクトにも、興味を持っていただいた印象であった。会場では、けやき循環プロジェクトの案内やケヤキの剪定風景などの写真展示も行い、多くの方が足を止めてくださっていた。

※中高ユネスコスクール探究プロジェクト

2021年度よりスタートした中学校の特別研究グループ「ユネスコスクール」の活動を2023年度から中高一貫連携の活動として継続・発展させ、環境保全活動、国際交流、伝統文化の理解普及、他のユネスコスクールとの交流などに生徒が主体となって取り組むプロジェクト

<剪定枝のグッズ作成>

桜祭と同時に開催される成蹊ESDフォーラム、および武蔵野クリーンセンターで開催されるエコマルシェでは、中高ユネスコスクール探究プロジェクトのメンバーと一緒に考案し、剪定枝で作成したキーホルダーやコースターなどのグッズを参加者に配布した。特に成蹊ESDフォーラム来場者用に作成した、生徒たちが自らデザイン、作成した消しゴムハンコが押されたケヤキの枝の輪切りのマグネットは、好評だった。

<むさしの環境フェスタでのワークショップ参加>

2024年11月17日に武蔵野市のむさしのエコreゾートで開催されたむさしの環境フェスタに参加し、「ケヤキの枝をつかったハタキ作成」のワークショップをおこなった。ハタキの作成には、中高の家庭科室に余っていた古布と、ケヤキの枝を活用した。「ハタキ用に布を割く」事前準備では、中高ユネスコスクール探究プロジェクトのメンバーだけでなく、大学生も参加してくれた。当日の参加者へのサポート、手順の説明などは、中高ユネスコスクールの生徒たちが中心になっておこなってくれた。むさしの環境フェスタには、幅広い年代の方がご来場されており、ワークショップには、「ハタキ」が何なのか知らない小さな子どもから、「ようやく納得のいくハタキに出会えた」と心から喜んでくださったご高齢の方まで、さまざまな方がご参加くださった。参加者の多くは成蹊学園からほど近いエコreゾート近隣にお住まいの方で、成蹊学園とけやき並木に対して、新たな視点と好意的な印象を持っていただけたのではないかと感じた。

#### 4. (期待される) 成果と(今後の)課題

けやき並木は成蹊学園関係者や近隣住民にとって何かしら思い入れがある場所であり、そのケヤキを手にする事で、人々の心に響くものがあるだろう。2024年度は学内および武蔵野市のイベントの場に参加したが、枝を介した活動で、学内(中高生、教職員)のつながりが生まれてだけでなく、地域の方や参加者と新たな交流をすることができた。今後も無理のない規模を模索し、活動を継続していきたい。

昨年度課題となっていた、回収したケヤキの枝を保管する場所、工作やワークショップで使える状態にするための一次加工の道具や作業場所が十分ではないことについて、今年度は学園木工所とそのスタッフの方のご協力を得ることができた。しかし、木工所スタッフへの過度な業務依頼は、本来の木工所の業務に影響をもたらす可能性があり、協力依頼の程度について検討が必要である。

また、今年度実施したワークショップの規模を基準にすると、職員の作業負担において業務時間中の作業時間の確保が難しく、時間外での作業がどうしても必要であった。けやき循環プロジェクトの活動と本来の業務との兼ね合いは、プロジェクト全体の課題でもあり、どのように両立していくか、考えていく必要があるだろう。また、今後積極的に参加してくれるメンバーの確保についても、引き続き課題としていきたい。

～活動の様子～

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



①桜祭の様子1

②桜祭の様子2

③切り詰め剪定で出た剪定枝を回収

④木工所で回収した枝の扱いの相談

⑤環境フェスタ準備風景

⑥環境フェスタの様子1

⑦環境フェスタの様子2